

# 高階導関数、級数、Taylor展開

# 高階導関数(higher order derivation)

導関数  $f'(x)$  が微分可能ならば、 $f'(x)$  の導関数が考えられる。これを、 $f''(x)$  で表わし、 $f(x)$  の **2階導関数** という。  $f''(x)$  が微分可能ならば、**3階導関数**  $f'''(x)$  が考えられる。このようにして、一般に  $f(x)$  が  $n$  回微分可能ならば、 **$n$ 階導関数** が考えられる。これを、 $f^{(n)}(x)$  で表わす。すなわち、

$$f^{(1)}(x) = f'(x), f^{(2)}(x) = f''(x), \dots$$

特に、

$$f^{(0)}(x) = f(x)$$

と定義しておく。2階以上の導関数を **高階導関数** という。  $n$  階導関数について、 $f^{(n)}(x)$  の他にも、

$$y^{(n)}, \frac{d^n y}{dx^n}, \frac{d^n f(x)}{dx^n}, D^n y, D^n f(x)$$

のような表わし方がある。  $n$  階導関数は  **$n$ 次導関数** ともいわれる。

## 高階導関数の計算例

$$\frac{d^n}{dx^n} \sin x = \sin(x + \frac{n\pi}{2}), \quad \frac{d^n}{dx^n} \cos x = \cos(x + \frac{n\pi}{2})$$

$$\begin{aligned} \frac{d}{dx} \sin x &= \cos x = \sin(x + \frac{\pi}{2}) \\ \frac{d^2}{dx^2} \sin x &= \frac{d}{dx} \cdot \frac{d}{dx} \sin x = \frac{d}{dx} \sin(x + \frac{\pi}{2}) = \cos(x + \frac{\pi}{2}) = \sin(x + 2 \cdot \frac{\pi}{2}) \\ \frac{d^3}{dx^3} \sin x &= \frac{d}{dx} \cdot \frac{d^2}{dx^2} \sin x = \frac{d}{dx} \sin(x + 2 \cdot \frac{\pi}{2}) = \cos(x + 2 \cdot \frac{\pi}{2}) = \sin(x + 3 \cdot \frac{\pi}{2}) \\ \dots \\ \frac{d^n}{dx^n} \sin x &= \frac{d}{dx} \cdot \frac{d^{n-1}}{dx^{n-1}} \sin x = \frac{d}{dx} \sin(x + (n-1) \cdot \frac{\pi}{2}) = \cos(x + (n-1) \cdot \frac{\pi}{2}) = \sin(x + n \cdot \frac{\pi}{2}) \end{aligned}$$

COS x の  $n$  次導関数も同様

$$\cos(x + \theta) = \sin(x + \theta + \frac{\pi}{2})$$

## $C^n$ クラスの関数(Differentiability class)

関数  $f(x)$  が、区間  $I$  で少なくとも  $n$  階まで微分可能で、かつ  $f^{(n)}(x)$  が連続ならば、 $f(x)$  を区間  $I$  における  **$C^n$ クラスの関数** という。

$C^0$ クラスの関数は連続関数に他ならない。

全ての  $n$  に対して  $C^n$ クラスの関数となっている  $f(x)$  を  **$C^\infty$ クラスの関数** という。

$C^\infty$ クラスの関数は何回でも微分可能な関数に他ならない。

e.g.  $\sin x, \cos x, e^x, \dots$  などは全て  $C^\infty$ クラスの関数

## 不定形の極限值

これは強力!!

**定理1 (l'Hopitalの定理:  $\frac{0}{0}$  の不定形の極限值)**

$\lim_{x \rightarrow a} f(x) = 0, \lim_{x \rightarrow a} g(x) = 0$  であっても、 $\lim_{x \rightarrow a} \frac{f'(x)}{g'(x)}$  が存在するときは、  

$$\lim_{x \rightarrow a} \frac{f(x)}{g(x)} = \lim_{x \rightarrow a} \frac{f'(x)}{g'(x)}$$

**定理2 (l'Hopitalの定理:  $\frac{\infty}{\infty}$  の不定形の極限值)**

$\lim_{x \rightarrow a} f(x) = \infty, -\infty, \lim_{x \rightarrow a} g(x) = \infty, -\infty$  であっても、 $\lim_{x \rightarrow a} \frac{f'(x)}{g'(x)}$  が存在するときは、  

$$\lim_{x \rightarrow a} \frac{f(x)}{g(x)} = \lim_{x \rightarrow a} \frac{f'(x)}{g'(x)}$$

定理1,2は  $\lim$  が  $\lim_{x \rightarrow a}$  や  $\lim_{x \rightarrow \infty}$  であっても成り立つ

## 不定形の極限値の計算例

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \cos x}{x^2}, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x^a} \quad (a > 0)$$

$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \cos x}{x^2}$  は  $x \rightarrow 0$  のとき、 $\frac{0}{0}$  の不定形になるので、

l'Hopitalの定理を利用する

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \cos x}{x^2} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{(1 - \cos x)'}{(x^2)'} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{2x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{(\sin x)'}{(2x)'} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{\cos x}{2} = \frac{1}{2}$$

$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x^a}$  は  $x \rightarrow \infty$  のとき、 $\frac{\infty}{\infty}$  の不定形になるので、

ロピタルの定理を利用する

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\log x}{x^a} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{(\log x)'}{(x^a)'} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{\frac{1}{x}}{ax^{a-1}} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{ax^a} = 0$$

## 関数の多項式による表現

### 定理3 (Maclaurinの定理)

$f(x)$  が原点0を含む開区間  $(-r, r)$  で  $n$  回微分可能ならば、 $(-r, r)$  内の任意の点  $x$  と、任意の正数  $m$  に対して、

$$f(x) = f(0) + \frac{f'(0)}{1!}x + \frac{f''(0)}{2!}x^2 + \cdots + \frac{f^{(n-1)}(0)}{(n-1)!}x^{n-1} + R_n(x),$$

$$R_n(x) = \frac{f^{(n-1)}(\theta x)}{(n-1)!m} \cdot (1-\theta)^{n-m} \cdot x^n, \quad 0 < \theta < 1$$

をみたく  $\theta$  が少なくとも1つ存在する

2013/5/15

解析学

7

## 級数(series)

数列  $\{a_n\}_{n=1,2,\dots}$  が与えられたとき、 $a_1, a_2, a_3, \dots$  の和の形に書かれた  $a_1 + a_2 + a_3 + \dots$  を考え、それを**級数**と呼ぶ。

$a_n$  を、その級数の**第  $n$  項**という。

級数  $a_1 + a_2 + a_3 + \dots$  は、 $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$  のように表現される。

ここで、 $s_n = \sum_{k=1}^n a_k$  とおき、 $s_n$  を級数  $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$  の**第  $n$  部分和**という。

部分和の作る数列  $\{s_n\}_{n=1,2,\dots}$  が  $s$  へ収束するとき、級数  $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$  は  $s$  へ収束するといひ、 $s$  をその**級数の和**という。

このことを、記号

$$\sum_{n=1}^{\infty} a_n = s \quad \text{または} \quad a_1 + a_2 + a_3 + \dots = s$$

で表わす。

級数  $\sum_{n=1}^{\infty} a_n$  が収束しないときは、**発散**するという。

2013/5/15

解析学

8

## 級数(series)

### 定理:

数列  $\{ar^n\}_{n=1,2,\dots}$  が与えられたとき、 $s_n = \sum_{k=1}^n ar^k$  級数であると、次のことが成り立つ。

- $|r| < 1$  であるとき、級数が**収束**である  $\sum_{n=1}^{\infty} ar^n = \frac{ar}{1-r}$
- $|r| > 1$  と  $a \neq 0$  であるとき、級数が**発散**である  $\sum_{n=1}^{\infty} ar^n = +\infty$

2013/5/15

解析学

9

## 級数の例(1)

数列  $\left\{\frac{1}{2^n}\right\}_{n=1,2,\dots}$  を考えると、 $a_1 = \frac{1}{2}, a_2 = \frac{1}{2^2}, a_3 = \frac{1}{2^3}, \dots$  となっている。この**級数**を考えると、

$$a_1 + a_2 + a_3 + \dots = \frac{1}{2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{2^3} + \dots = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2^n}$$

である。この級数の**第  $n$  項**は、もちろん  $\frac{1}{2^n}$  である。

**第  $n$  部分和**は、 $s_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{2^k}$  である。

従って、部分和の作る数列

$$s_1 = \frac{1}{2}, s_2 = \frac{1}{2} + \frac{1}{2^2}, s_3 = \frac{1}{2} + \frac{1}{2^2} + \frac{1}{2^3}, \dots, s_n = \frac{1}{2} \left( 1 - \left(\frac{1}{2}\right)^n \right) \dots$$

を考えると、 $\lim_{n \rightarrow \infty} s_n = 1$

従って、級数  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2^n}$  は1へ収束する

2013/5/15

解析学

10

## 級数の例(2)

同じく、数列  $\left\{\frac{1}{n}\right\}_{n=1,2,\dots}$  を考えると、 $a_1 = \frac{1}{1}, a_2 = \frac{1}{2}, a_3 = \frac{1}{3}, \dots$  となっている。この級数を考えると、

$$a_1 + a_2 + a_3 + \dots = \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n}$$

である。

この級数は調和級数として知られており、実は、**発散**する

調和級数  $\sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n} = 1 + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots + \frac{1}{n} + \dots$  は発散

2013/5/15

解析学

11

## 整級数(ベキ級数:power series)

$a_n$  の代わりに関数  $f_n(x)$  を考えれば、**関数項級数**と呼ばれる

$$\sum_{n=0}^{\infty} f_n(x) = f_0(x) + f_1(x) + f_2(x) + f_3(x) + \dots$$

が得られる。区間  $I$  の各点  $x$  で級数  $\sum_{n=0}^{\infty} f_n(x)$  が収束するとき、関数項級数  $\sum_{n=0}^{\infty} f_n(x)$  は  $I$  で**収束**するという。  $I$  の各点  $x$  で発散するときは、 $I$  で**発散**するという。

$f_{n+1}(x) = c_n(x-a)^n$  ( $c_n, a$  は定数) の形の関数項級数

$$\sum_{n=0}^{\infty} c_n(x-a)^n = c_0 + c_1(x-a) + c_2(x-a)^2 + \dots$$

を整級数またはベキ級数という。

$a=0$  の場合の整級数は、

$$\sum_{n=0}^{\infty} c_n x^n = c_0 + c_1 x + c_2 x^2 + \dots$$

の形となる。

2013/5/15

解析学

12

## Taylor展開 (Taylor Development)

### 定理4

$f(x)$  が原点0を含む区間  $I$  で  $C^\infty$  クラスの関数であるとき、マクローリンの定理における剰余項  $R_n(x)$  が  $I$  の各点  $x$  で

$$(1) \quad R_n(x) \rightarrow 0 \quad (n \rightarrow \infty)$$

を満たしていれば、 $f(x)$  は  $I$  で、

$$(2) \quad f(x) = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{f^{(n)}(0)}{n!} x^n = f(0) + \frac{f'(0)}{1!} x + \frac{f''(0)}{2!} x^2 + \frac{f'''(0)}{3!} x^3 + \dots$$

のように整級数に展開される。

特に、 $I$  の全ての点  $x$  に対して

$$|f^{(n)}(x)| \leq K \quad (n=1,2,3,\dots)$$

となるような定数  $K$  が存在する場合は(1)が満たされ(2)の展開が可能である。(2)の右辺を  $f(x)$  の  $x=0$  まわりのTaylor展開という。

2013/5/15

解析学

13

## $\sin x$ のTaylor展開

$f(x) = \sin x$  とおくと、 $f(x)$  は  $(-\infty, \infty)$  で  $C^\infty$  クラスの関数である。また、 $n=1,2,3,\dots$  に対して、

$$f^{(n)}(x) = \frac{d^n}{dx^n} \sin x = \sin(x + \frac{n\pi}{2})$$

従って、

$$f^{(2n)}(0) = \sin(\frac{2n\pi}{2}) = \sin n\pi = 0$$

$$f^{(2n+1)}(0) = \sin(\frac{(2n+1)\pi}{2}) = \sin(n\pi + \frac{\pi}{2}) = (-1)^n$$

特に、 $|f^{(n)}(x)| = |\sin(x + \frac{n\pi}{2})| \leq 1$

従って、定理4よりTaylor展開可能で、

$$\sin x = 0 + \frac{(-1)^0}{1!} x + \frac{0}{2!} x^2 + \frac{(-1)^1}{3!} x^3 + \dots + \frac{0}{2n!} x^{2n} + \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n+1} + \dots$$

$$= x - \frac{1}{3!} x^3 + \frac{1}{5!} x^5 - \frac{1}{7!} x^7 + \dots + \frac{(-1)^n}{(2n+1)!} x^{2n+1} + \dots \quad (-\infty < x < \infty)$$

2013/5/15

解析学

14

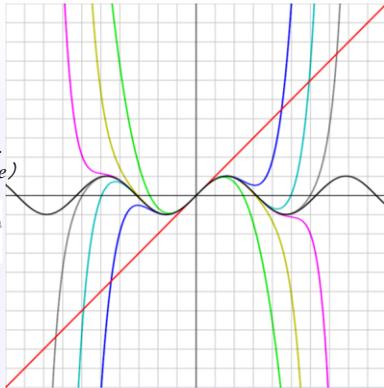
0近辺で  $\sin(x)$  と Taylor展開のグラフ

多項式の級:

1, 3, 5, 7, 9, 11 and 13.

(polynomials of degree)

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{f^{(n)}(a)}{n!} (x-a)^n$$



2013/5/15

解析学

15

## 主要な関数のTaylor展開

$$\sin x = x - \frac{x^3}{3!} + \frac{x^5}{5!} - \frac{x^7}{7!} + \dots + (-1)^n \frac{x^{2n+1}}{(2n+1)!} + \dots \quad (-\infty < x < \infty)$$

$$\cos x = 1 - \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} - \frac{x^6}{6!} + \dots + (-1)^n \frac{x^{2n}}{(2n)!} + \dots \quad (-\infty < x < \infty)$$

$$e^x = 1 + \frac{x}{1!} + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \dots + \frac{x^n}{n!} + \dots \quad (-\infty < x < \infty)$$

$$\frac{1}{1-x} = 1 + x + x^2 + x^3 + \dots + x^n + \dots \quad (-1 < x < 1)$$

$$\log(1+x) = x - \frac{x^2}{2} + \frac{x^3}{3} - \frac{x^4}{4} + \dots + (-1)^{n-1} \frac{x^n}{n} + \dots \quad (-1 < x \leq 1)$$

$$(1+x)^a = 1 + \binom{a}{1}x + \binom{a}{2}x^2 + \dots + \binom{a}{n}x^n + \dots \quad (-1 < x < 1)$$

$$\text{但し, } a \in \mathbf{R}, \binom{a}{n} = \frac{a(a-1)\dots(a-n+1)}{n!}$$

2013/5/15

解析学

16

$$\ln(1 + \cos x) = \ln 2 - \frac{x^2}{4} - \frac{x^4}{96} - \frac{x^6}{1440} - \frac{17x^8}{322560} - \frac{31x^{10}}{7257600} - \dots$$

例題: 高関数

$$g(x) = \frac{e^x}{\cos x}$$

分子関数と分母関数のTaylor展開と予想結果:

$$e^x = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{x^n}{n!} = 1 + x + \frac{x^2}{2!} + \frac{x^3}{3!} + \frac{x^4}{4!} + \dots$$

$$\cos x = 1 - \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} - \dots$$

$$\frac{e^x}{\cos x} = c_0 + c_1x + c_2x^2 + c_3x^3 + \dots$$

2013/5/15

解析学

17

$$\begin{aligned} e^x &= (c_0 + c_1x + c_2x^2 + c_3x^3 + \dots) \cos x \\ &= (c_0 + c_1x + c_2x^2 + c_3x^3 + c_4x^4 + \dots) \left(1 - \frac{x^2}{2!} + \frac{x^4}{4!} - \dots\right) \\ &= c_0 - \frac{c_0}{2}x^2 + \frac{c_0}{4!}x^4 + c_1x - \frac{c_1}{2}x^3 + \frac{c_1}{4!}x^5 + c_2x^2 - \frac{c_2}{2}x^4 + \frac{c_2}{4!}x^6 + c_3x^3 - \frac{c_3}{2}x^5 + \frac{c_3}{4!}x^7 + \dots \end{aligned}$$

予想結果:  $c_0, c_1, c_2, \dots, c_n$ 等を求める

$$= c_0 + c_1x + \left(c_2 - \frac{c_0}{2}\right)x^2 + \left(c_3 - \frac{c_1}{2}\right)x^3 + \left(c_4 + \frac{c_0}{4!} - \frac{c_2}{2}\right)x^4 + \dots$$

結果:

$$\frac{e^x}{\cos x} = 1 + x + x^2 + \frac{2x^3}{3} + \frac{x^4}{2} + \dots$$

2013/5/15

解析学

18